



「五ヶ瀬中学校校歌より」

学 び 舎

五ヶ瀬中学校校長室だより
令和 元年 11月 29日
No. 7
文責：校長 戸 敷 二 郎



校内文化発表会

先月 26 日に第 4 回校内文化発表会が開催されました。
今回から「朝のリハーサル」を取り入れ、開始時間を 10:00 からに変更し、例年よりも短い時間設定で実施してみました。

短縮した影響を心配していましたが、ほぼ予定通りの計画の中で非常に充実した文化発表会になりました。早いものでは夏休み中から準備を始め、1、2 年生は中体連大会を控える中で昼休みや放課後などを活用しながら、クラス一体となった準備を進めてくれました。

当日は、これらの成果が十分に発揮され、各学年の創意工夫が随所に見られ、見応えのある発表の連続でした。特に今回感じたのは指導に当たってくださった各学年の先生方の思いと生徒達の思いが見事にマッチして、質の高い表現がなされたことです。伝えたい思いを言葉や文字、歌やダンスに載せてしっかりと表現できていました。閉会行事での校長講評では「五中の校長でよかった！県内の中学校校長で、こんなに素晴らしい文化発表会を観られたのは私だけだと思う。」と伝えました。心底、そう思われた素晴らしい発表会でした。これも小学校から続いている五ヶ瀬教育ビジョンの大きな成果のひとつだと感じています。

この発表の一部は今月初めの五ヶ瀬町教育文化祭でも披露され、後に続く小学校の後輩達や町民の皆さまにも見ていただくことができました。

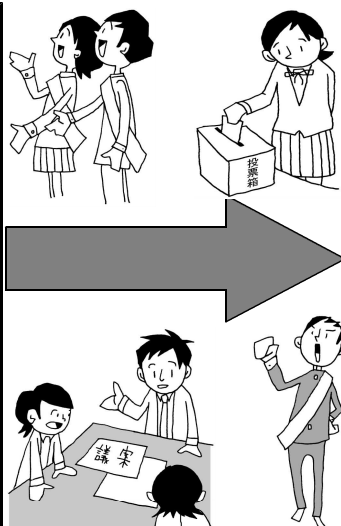
新生徒会役員決定

9 月下旬に行われた生徒会選挙を受けて、10 月に新生徒会役員が決定しました。実質的な新役員だけのスタートは旧役員と連携した文化発表会を終了した今月に入ってからとなっています。

新役員のスタッフは先輩方と一緒に作った本年度のスローガン『みんな輝け五中魂～令和の節目に刻む感動の物語～』を引き継ぎ、意欲的な活動を開始してくれています。年が明けると五ヶ瀬中学校創立 5 年目の新しい節目も迎えます。次なるステップアップのためにも今年度の取組を充実させ、新たなチャレンジを積み重ねていってほしいものです。頑張れ、新役員！

【旧 役 員】（敬称略）

役 職	氏 名
生徒会 会 長	藤川 劉之丞
生徒会 副会長	甲斐 陽南子
生徒会 副会長	甲斐 舞穂
生徒会 書 記	甲斐 南沙
生徒会 会 計	山下 雄大
学 習委員長	山下 結衣
〃 副委員長	松本 かな
生活美化委員長	佐藤 祥生
〃 副委員長	田中美妃南
保健体育委員長	甲斐 鈴乃
〃 副委員長	甲斐 悠飛
給 食委員長	甲斐 竜童
副委員長	甲斐 陽向



【新 役 員】（敬称略）

役 職	氏 名
生徒会 会 長	甲斐 南沙
生徒会 副会長	山下 雄大
生徒会 副会長	松本 かな
生徒会 書 記	馬原 乃愛
生徒会 会 計	藤川 秀虎
学 習委員長	甲斐 遥大
〃 副委員長	松田 紀美香
生活美化委員長	那須木 乃芭
〃 副委員長	興 柊 絢乃
保健体育委員長	田中美妃南
〃 副委員長	甲斐 右恭
給 食委員長	甲斐 陽向
副委員長	佐藤 駿輝

非認知的能力

～早寝・早起き・朝大豆はここにもつながる～

あまり耳慣れない言葉ですが、近年の研究から、この「非認知的能力」の重要性に注目が集まっています。少し解説をしていきたいと思います。

まずは「非認知的能力」とは何でしょう？対比される「認知的能力」と比べてみましょう。

認知的能力とは

知能テスト（IQ：知能指数）や学力テストなど、測定して数値化できる能力のこと。数値化された結果を基に比較ができる能力のこと。



非認知的能力とは

目標に向かって取り組む粘り強さ、協調性、やり抜く力、自制心、感謝する力、コミュニケーション力など、数値化できない能力のこと。



色々な研究から調べてみると、上のような分類がなされています。確かに、非認知能力に示された内容は測定することが難しい内容です。文部科学省が示す学習指導要領の中に出てくる「生きる力」は、この非認知能力を意識したものだと言われています。

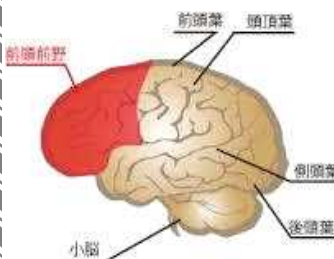
なぜ、非認知能力の育成が重要なのか？

企業経営者の方や企業の人事担当の方などと話す機会がありますが、時々次のような話を聞くことがあります。「新規採用の職員で、あいさつができない、お礼が言えない、失敗してもあやまることができない、時間を守れないなどの状況が増えてきた。いくら有名大学を出てきていても、これらのことができないために辞めさせたり、辞めていったりする事例がある。」といった内容です。言い換えれば、**認知能力**が高くても**非認知能力**が低ければうちの会社にはいられないと言われているに等しいということです。当然、両方高ければ文句なしです！



つまり、社会に出てから、目標に向かって周囲の人と協力したり、助け合ったり、アイデアを出し合ったりなどの協働作業の基礎的な力がなければ、どれだけ学生時代にテストの点数がよくても社会人として生きていくのは難しいということです。当初は認知的能力が少々低くても、これを伸ばす**土台となる非認知能力**（粘り強さ、やり抜く力等）が身に付いていれば、後からどんどん認知的能力は高まります。研究者は、**認知的能力と非認知的能力は絡み合うようにして伸びる**と述べています。

どうすれば非認知能力は育つの？



五ヶ瀬町では義務教育9年間の中で「豊かな体験活動」に取り組むことによって、自然の豊かさに感謝し、この町の文化伝統が協働することで守り継がれてきていることなどを学習してい

ます。研究者によれば、このような体験は早ければ早いほど非認知能力の育成には効果があるとしています。感謝をしたりされたり、喜びを分かち合ったり、大人からほめられたりしながら**自己肯定感を高めていく育ち**が大切なのだということです。

上の図は何度も登場する「前頭前野の働き」を示しています。いつもお伝えしているように、人間が人間であるために最も重要な器官です。この前頭前野の発達は、見ての通り非認知能力の発達と密接な関係があり、AIには代替できない機能だともいわれています。



私の講話で必ずお伝えしていることは「前頭前野の発達は、幼少期からの早寝・早起きを中心とした適切な生活リズムの中で育つ」ということです。

25歳過ぎまでかかってゆっくり発達する前頭前野を育むのは、五ヶ瀬町が取り組む「**早寝・早起き・朝大豆**」が基本であることは間違いありません！

